



世界を知る ～It know the world～

このページでは、「世界を知る」をテーマに独立行政法人国際協力機構(JICA)デスク熊本や、国際交流・協力分野で活躍している皆さんのご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介いたします。

「自分が変わる 世界が変わる」

青年海外協力隊 山崎 文美 さん

(平成 22 年 6 月～平成 24 年 6 月 ザンビア共和国派遣 職種：理数科教師)

「自分が変わる 世界が変わる」

以前、こんなフレーズが青年海外協力隊募集のポスターに載っていました。私にとって青年海外協力隊への参加は、高校時代からの憧れでした。経験者の方がすごく輝いて見えたからです。それから約 10 年、大学を卒業し、OL も経験し、「道はまっすぐじゃない！人生、冒険もありでしょ？」と、私自身が“いざ！アフリカ大陸ザンビア共和国へ！”となったのです。

私は、ザンビア共和国のセレンジェという小さな田舎町の公立高校に赴任しました。1 年生と 2 年生に数学と化学を教えるのが私の役目。私が時間通りに教室に行くと、もうそれだけで称賛してくれます。現地ではアフリカタイムと言って、時間にルーズなのが当たり前だからです。生徒たちは私のたどたどしい英語の授業もしっかりと聞いてくれ、熱心に参加してくれました。

印象的だったのは、私が作った教材のプリントを渡すと、「ありがとう！」と言って受け取ってくれたことです。それをノートに貼り付けて、ずっと大切にしてくれていました。自分は学生時代、お世話になった先生方に、たった 1 枚のプリントをもらって「ありがとう」なんて言ったことあったかなあ…と、子どもたちに頭の下がる思いがしました。

さて、私の住んでいた家についてです。家には水がない！冷蔵庫もテレビもない！電気もよく停まります。が、ないないと言っても始まりません。「電気や水に不自由しない日本での便利な生活って本当に贅沢でありがたいんだよなあ」と、当たり前過ぎて見落としていたことに改めて思いを馳せ、感謝することができました。そしてその生活を支えてくれていた両親にも。離れているとありがたさが本当によくわかります。

町に出れば、セレンジェではまったく知らない人が駆け寄って握手をし、笑顔で挨拶をしてくれます。

現地語など言葉が通じなくても、人を思いやる気持ちや愛する気持ちを感じることが出来ました。



高 2 クラスの教え子たち

私は 2 年間という任期の中で一度も日本に帰ることはありませんでしたが、ザンビアの人々のおかげでとても温かな気持ちで毎日過ごし、そしてヒューマニティあふれる生活を送ることができました。

そして今、帰国してから約 2 年が経ちました。アフリカ諸国が紹介されるテレビ番組もずいぶん増え、それを見るたびに雄大な自然、青い空、人々のきれいな瞳やこぼれる笑顔を見入ってしまいます。あの表情を今の私たちは忘れていたような気がします。

私は青年海外協力隊で一生涯の経験を経験することができ、この経験を日本で伝えられることに喜びを感じています。『百見は一経験に如かず！』を痛感しました。皆さんもいかがですか？私の人生観や世界を見る目は、これを機に変わったと思います。

実は私は鳥取県出身です。協力隊参加が縁で、ザンビアで同期だった隊員と結婚し、今年 4 月に熊本に嫁いできました。熊本でも、また新たな経験をしたいと思っています。



ザンビアの同僚の家族